

やなせたかし氏 93歳 原作のアニメ「アンパンマン」は子供たちがテレビに釘づけになるようなヒーローの一人です。

その主題歌「アンパンマンマーチ」は、誰もが勇気と希望を得られる歌としても有名です。

東日本大震災発生の日三日後、ある地元ラジオ番組に視聴者からこの歌へのリクエストがあり、多くの避難場所では子供たちがラジオに合わせて大合唱を始め、大人たちも涙を流して感動したといひます。それからラジオ局では、連日この歌を流し続けました。

「アンパンマンマーチ」の歌詞は、原作者のやなせ氏自身が作ったものです。自身の人生における戦争体験や、その他の様々な辛い経験の中から得たものが集約されています。

また、「このアニメのヒーローである「アンパンマン」は、困っている人や悲しんでいる人に、自分の顔であるアンパンをちぎって食べさせ、元気になってもらおう」という設定となっています。

当初は世の親たちから「残酷だ!」と大不評だったようですが、「捨て身、献身の心なくして、正義は行なえない」という確固たる信念を含んだ表現を氏は貫きました。徐々に共感が得られるようになって、子供たちの不動のヒーローになったのです。

作者自身は明言していませんが、やなせ氏の二歳下の弟である千尋さんは、京都帝国大学に進学し、海軍の特攻隊である人間魚雷「回天」の乗組員に志願しています。そしてフィリピン沖で散華しています。こつした肉親の存在は、正義の味方「アンパンマン」を世に送り出す上で、作者の心



## 「喜び」への行動が よき思い出を生む

の大きな柱になっていると想像できます。「アンパンマン」のアニメ・歌詞からは、私たちに強く訴えるものを非常に感じます。やなせ氏の経験をベースにした内容が、私たちの機微に触れるからでしょう。それは何より氏の姿勢に一本通っているからだといえます。

やなせ氏は人生の意味について、「人生最大の喜びは何か?それはつまるところ、人を喜ばせることだと思った。人生は、喜ばせようとしたとき、とても気が楽になった」と語っています。

そして「ぼくらはみんな、それぞれ違う思い出を持っている。そして、なるべくよい思い出を作りたいと思って人生を生きる」とも表現しています。「人生の最大の喜びは人を喜ばせることである」という信念的な帰結が、詞のモチーフになっているようです。

経営者は様々な業種・業態の中を生きています。各人が苦労や責任を背負って日々を過ごしています。純粋倫理の実践は、そのような経営者の皆さんの「よい思い出づくり」に力を発揮します。必要なのは「人を喜ばせること」です。人を喜ばせれば、自分が喜べる。お客様を喜ばせれば、自分や社員が喜べる。それが「よい思い出」につながっていきます。

アンパンマンの歌が被災者に勇気を与えたように、私たち経営者は周囲に喜びを提供していきましょう。「日本創生」を目指す私たち倫理法人会は、日本に生きる人たちの思いや願いを常に忘れず、皆が安心して暮らせる「日本」であるよう、それぞれが置かれた立場で、「人を喜ばせること」を確認しましょう。そして、「愛と勇気」を胸に、熱い心で今を邁進していきましょう。

絵・今谷 鉄柱